



スポーツバイクニュース

～中級レベルのメカニック向け実践的作業事例～

平成30(2018)年1月31日 Vol. 20

隔月発行

今泉紀夫のMTB診断術—MTB用HEリム 26インチ36H

このMTB診断術は、自転車販売店でのMTBの修理・調整作業を紹介しています。ワークショップモンキーの今泉紀夫さんが、自身の経験に基づいた実際の事例から作成したモデルケースです。自転車販売店の中級レベルのメカニックを対象にしているため、基本的な名称、説明等は省略しています。作業は必ずメーカーマニュアルに従って行ってください。

持ち込まれたMTBの状況

かなり前に当店で販売したMTBに乗っているお客様がご来店されました。定期的なメンテナンスを欠かさず行っていた馴染みのお客様でした。フロントリムのサイドウォールにダメージがあるとの説明でした。MTBの第一印象は、大切にいただいているが、使用感がかなり感じられる状態でした。

MTBの状況

お客様のMTBのブレーキとリムは、フロントとリアともにVブレーキを装着、フロントリムは26×1.50HE、ERD 545、36H、シルバーでした。お客様がご説明されるとおり、フロントリムのサイドウォールのブレーキ面が摩耗していました。リアリムはすでに交換済みでしたので問題はありませんでした。フロントのエンド幅は標準的な100mmでした。

交換用のMTBリム

現在のMTB用HEリムの主流はフロントとリアともに32Hです。

交換対象のMTBのフロントリムは36Hです。

現在入手できる36Hリムは、シティ車からMTBまでをカバーしたエントリーモデル用、色はシルバーに限定されつつあります。

このように、36Hに適合するリムの種類が少なくなっているばかりではなく、リムの色もほぼシルバーに限られてくるので、お客様のご希望がトレイルでの利用、色がブラックの場合には、対応するリムがすぐに入荷するかどうかとも確かではありません。

お客様との相談

フロントリムのみを36Hから32Hのリムに交換する場合、リアリムと色は統一できますが、スポーク本数とリムの形状は明らかに異なるので、見た目を重視するお客様であれば、少し躊躇するかもしれません。

一層のこと、フロントリム、リアリムともに32Hに交換することもできますが、そうなるとハブなどの交換も伴うことになり、より多くの費用がかかってしまいます。

お客様に説明する際には、交換部品の入荷状況を確認し納期も説明するようにしたいものです。



写真1: MTB用HEリム 36H ブラック

作業方針について説明

MTBを街乗り用として利用しているお客様ならば、使用状況にもよりますが、交換用リムはエントリーモデル用で十分ではないかと思えます。入荷した交換用リムはエントリーモデルの26×1.50HE、ERD545、36H、シルバーであり、現在のものと同じ仕様でした。

作業の主な手順

クイックリリースレバーを緩め、フロントホイールをフロントフォークから取り外します。タイヤ、チューブ、リムテープ、リム、ハブ、スポーク、ニップル、クイックリリースレバーに分解します。分解した部品の中で、リムテープ、リムを除き、その他の部品にはダメージがないことを確認した上で、現在のものを使用します。リムテープ、リムは新品に交換し、ホイールを組み上げていきます。

最近の傾向

Vブレーキに対応したHEリムは32Hが主流であることは既にご説明しましたが、最近の傾向として、ディスクブレーキ専用リムが急激に増加しています。ディスクブレーキ専用リムであると28Hが多く、そのほとんどがサイドウォールはブレーキ面として設計されていません。Vブレーキに対応した36Hのリムは次第に部品交換、修理が難しくなっています。

最後に

MTBの技術進歩は日進月歩であり、多くのメーカーが新しい製品の開発にしのぎを削っています。ブレーキだけを見ても、カンチブレーキ ⇒ Vブレーキ ⇒ 機械式・油圧式ディスクブレーキと進歩しています。このような状況を踏まえ、お客様が大切に長年使用しているMTBの部品交換、修理の際には細心の注意が必要です。

なお、今回はフロントリムを交換対象としましたが、リアリムを交換するケースでは、さらに、リアエンド幅、リアハブ、スプロケットなど関係するサイズや部品が増えるので、更なる注意が必要です。



写真2：スポーク穴のピッチの違い 上段：32H 下段：36H



<監修>

ワークショップモンキー 今泉紀夫(いまいずみ のりお)

URL: <http://www.monkey-magic.com/> 住所: 東京都豊島区高田 3-13-6-102

MTBメンテナンス解説書の監修を手掛け、知識と技能は国内トップクラスにある。

オリジナルフレームの開発でも有名。SBM(スポーツバイクメカニック)認定講師

<発行> 一般財団法人自転車産業振興協会 〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル4階

電話：03-6409-6922 FAX：03-6409-6868

<http://www.jpbi.or.jp>